

「高崎プライド」 ～心と形を整える～

令和2年6月11日（木） NO9 文責 木下 文秋

3度お辞儀をする女性

私は三股町から通勤するのでいつもは高城の田んぼ道を通って帰りますが、最近市内に用事があって10号線を通りました。信号待ちをしている時、あるお店で不思議な光景を目にしたので紹介します。そのお店は台所で使うシンクとかを扱うお店で名前を聞いたら皆さんが知っているところです。中から夫婦らしき二人のお客さんが出てきて、車に乗り込み帰ろうとしていました。お店の駐車場を出る時、社員の若い女性が1回お辞儀をしました。そして、左折して店の敷地から出る時もう一度2回目のお辞儀をしていました。次に全く車が見えなくなってから3回目のお辞儀をしている姿を見ることが出来ました。3回目のお辞儀の時には、その女性からは誰の姿も見えないはずです。どうして、3回目のお辞儀をしたのでしょうか？似た光景はガソリンスタンドにもあります。ガソリンを入れた車が出て行く時に1回目、出て行った後に2回目、遙か先に行ったときに3回目。合計3回お辞儀をするところがあります。3回目のお辞儀は恐らくお客さんには見えていません。お店に来ていただいた感謝の気持ちをお辞儀で表現するとしたら、3回目は見えていないので無駄といえば無駄です。しかし、その無駄にきちんとした意味があるのだと思います。お客さんには3度目のお辞儀は見えていませんが、道路を通りかかった私は3度目のお辞儀を見て「この会社すごいな～。こんな会社なら誠実に対応してくれるかもしれない。もしシンクで困ったらこのお店に行こう」と思うかもしれません。もちろんそんなことばかり考えて3度のお辞儀をするように会社で決まっているとは思いませんが、一見他人には無駄に見えることでも、きちんとした意図があるのだと思います。来ていただいたお客様に感謝の気持ちを持つ社員を育てる意図とか、礼法を重んじる会社の意図であるとか。会社は利益を上げればそれでいい時代から、会社がどんな社会貢献が出来るのかまで考える時代になっていると思います。他人には無駄だと思える行動が、その人自身を大きく成長させるとしたら素晴らしいし、もしあの女性がこの会社でよかったと感謝しているとしたらとても素敵なことです。私はその女性の3度のお辞儀を見て「人として誠実に丁寧に仕事をすることの大切さ」を感じて少し得をした気持ちになりました。人間は日々「修行の身」です。